

志賀原子力発電所周辺における 地殻変動及び地震発生状況に関する報告について

平成23年8月30日
北陸電力株式会社

当社は、本日（8月30日）、原子力安全・保安院からの指示文書¹に基づき、東北地方太平洋沖地震が発生した3月11日以降の志賀原子力発電所周辺における地殻変動及び地震発生状況の調査結果について、同院に報告しましたのでお知らせいたします。

6月6日、原子力安全・保安院から、耐震設計上考慮していない断層等の周辺において、3月11日以降に発生した地震に伴って生じた地殻変動及び地震発生状況の調査を実施し、考慮すべき断層に該当する可能性を否定できない場合は地表踏査等を行い、その結果を報告するよう指示を受けました（平成23年6月6日お知らせ済み）。

当社は、志賀原子力発電所周辺において、3月11日以降の地殻変動及び地震発生状況について調査し、本日、以下のとおり同院に報告しました。

地殻変動については、東北地方太平洋沖地震に伴い志賀原子力発電所の近傍において20cm程度の変動量が観測されていますが、能登半島において変動量や向きが周囲と顕著に異なる地点は認められず、また、時間の経過とともに変動量は収束傾向にあります。

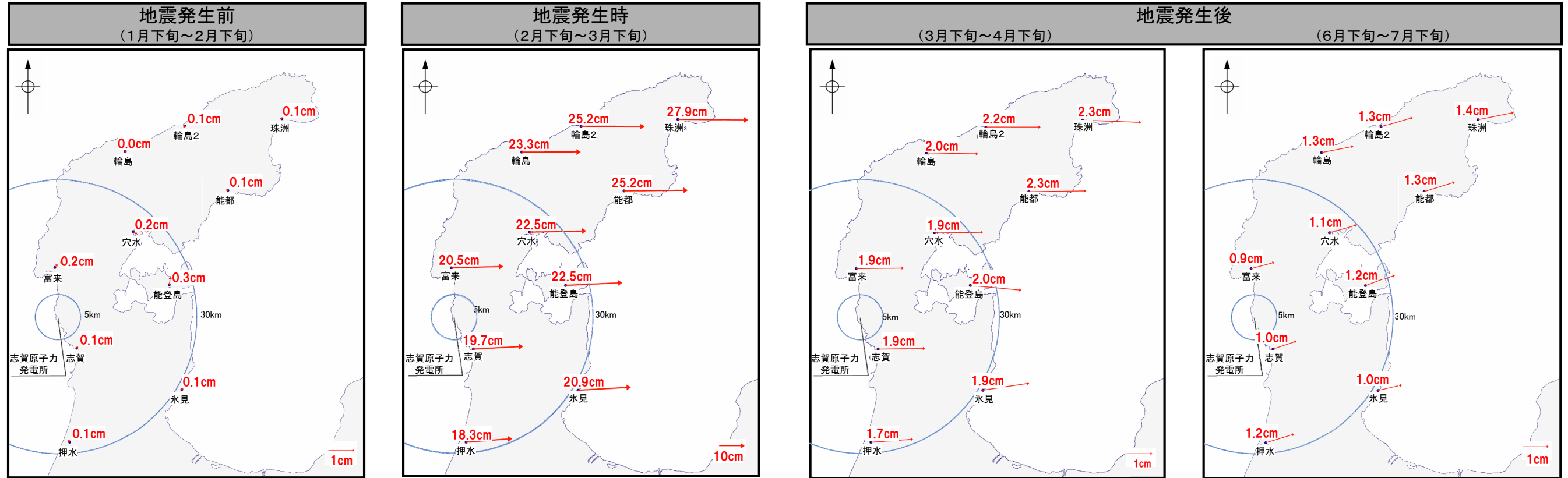
地震発生状況については、東北地方太平洋沖地震の発生前後で、志賀原子力発電所周辺において震源分布や発生頻度に顕著な変化は認められません。

以上のことから、3月11日以降の地殻変動及び地震発生状況は、志賀原子力発電所の耐震設計上考慮していない断層等の評価に影響を与えるものではないと判断しました。

なお、当社は今後も引き続き今回の地震に関する情報収集に努め、新たな知見については、適切に対応してまいります。

¹「平成23年東北地方太平洋沖地震を踏まえた新耐震指針に照らした既設発電用原子炉施設等の耐震安全性の評価結果の報告に係る原子力安全・保安院における検討に際しての意見の追加への対応について（追加指示）」（平成23・06.03原院第1号）

地殻変動

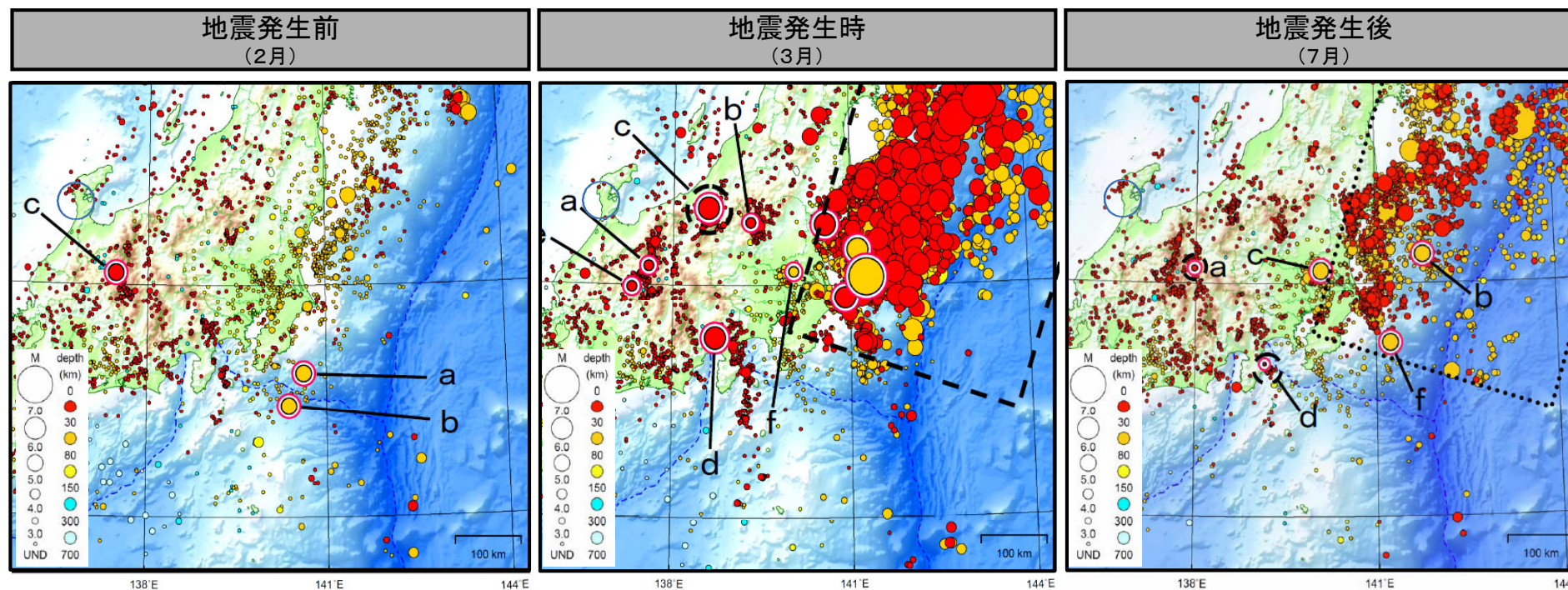


○東北地方太平洋沖地震に伴い志賀原子力発電所の近傍において20cm程度の変動量が観測されていますが、能登半島において変動量や向きが周囲と顕著に異なる地点は認められず、また、時間の経過とともに変動量は収束傾向にあります

国土地理院のGPS観測網(GEONET)の連続観測データを用いて作成
 1.0cm 電子基準点と志賀
 その変動量・方向

地震発生状況

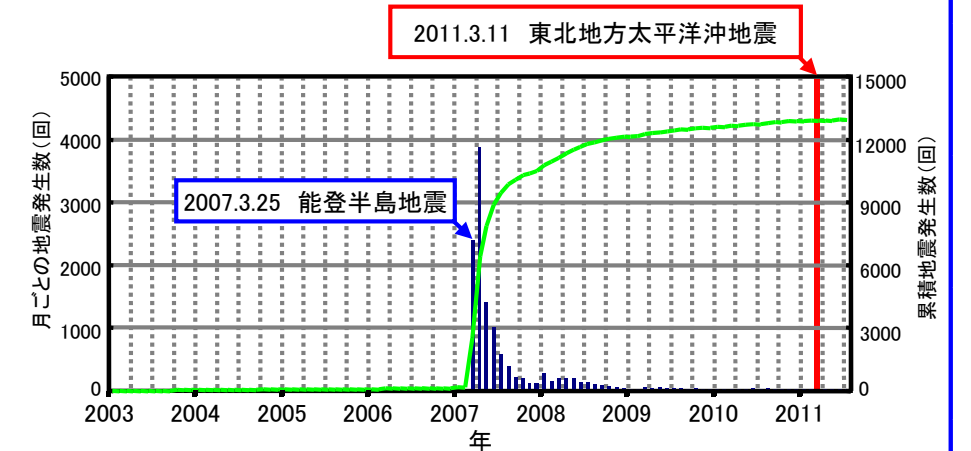
●震源分布



○志賀原子力発電所から半径30km範囲

「地震調査研究推進本部地震調査委員会 毎月の地震活動の評価」より抜粋・加筆 (図中のa, b等の記号は、地震調査委員会が個別に説明している地震)

●発生頻度



棒グラフ(—): 月ごとの地震発生数
 曲線(—): 累積地震発生数
 気象庁一元化震源データを用いて作成
 期間: 2003年1月1日～2011年7月31日
 範囲: 志賀原子力発電所より30km以内
 震源深さ: 20km以浅

○東北地方太平洋沖地震の発生前後で、志賀原子力発電所周辺において地震発生状況に顕著な変化は認められません